

2月の科学あそび分科会

野菜で紙を作る

担当・報告 原田佐知子



野菜を使って紙を作ったら、食べることもできそう、というのが最初のスタートでした。たまたま古書店でみつけた本『やさしいかみ』を参考に、作ってみました。

<材料・道具>

野菜（大根の葉、水菜、冬瓜、のらぼう菜、ルッコラ）、くず粉、すり鉢、スチレンボード（10cm×15cmを半分にする）、洗濯ばさみ2個、つま楊枝、台所用ネット、木の板、水を入れる大きめの弁当箱、キッチンペーパー

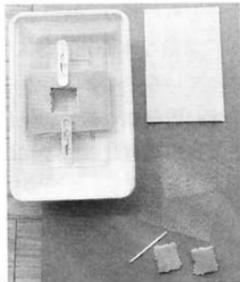


写真1 主な材料など

<野菜の下準備>

今回は、色々な下準備のものを持参した。

- ・ゆでる（大根の葉）
- ・少し重曹を入れてゆでる（水菜）
- ・冷凍保存した後ゆでる（冬瓜）
- ・下準備なし（のらぼう菜、ルッコラ）

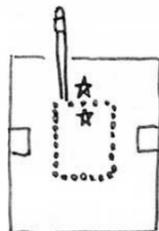
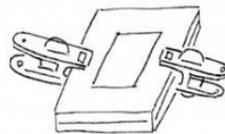
<作り方>

漉きワクを作る

- ①スチレンボード2枚をかさねてズレないようにとめ、つま楊枝で2枚突きとおすように穴をあけながら、型抜きする。

洗たくばさみでとめ、型抜きをする。

※抜いた部分もあとで使うので捨てないこと。



つまようじでポツポツとさしていき ☆おもてもうらも、目印をつけておこう！

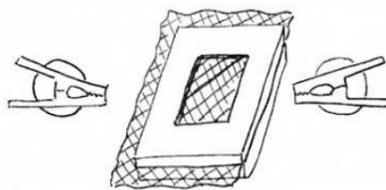


あとではめこむときの目印

※きれいに抜くにはカッターの方が良いが、子ども向けの講座ではカッターを使うことがNGのため、つま楊枝方式にした。

②スチレンボードの大きさにネットを2枚切ってはさむ。ネットは1方向だけに伸びるので、縦横の向きを変えて2枚のネットを乗せるとたわみにくい。

③ネットをはさんだら、両端を洗たくばさみで止める。



これで漉きワクが完成！

野菜から繊維を取り出して漉く

- ④ゆでたもの、下準備なしのもの、どの野菜も、同じようにすり鉢ですって、やわらかくする。（ゆでていない物や、柔らかい葉の部分などは、荒い目の台所用ネットに入れて、水の中で揉みだすと、白っぽい繊維だけが取り出せる。）
- ⑤大き目の弁当箱に、漉きワク全体がつかれる程度の水を入れ、④の繊維を漉きワクのネットに適量のせる。
- ⑥くず粉をひとつまみのせて、繊維となじませながら、繊維がネットの上で同じ厚みになるように広げる。
- ⑦漉きワクを水からひきあげ、上にネットを乗せてから、①で抜いたスチレンボードを漉きワクの穴にはめこみ、水分を押し出す。（上下2個はめ込むと、しっかり絞れる）。
- ⑧漉きワクの洗たくばさみはずし、木の板に繊維を乗せてからネットをそっとはがす。



写真2、3 キッチンペーパーや板にのせてかわかす

※分科会ではここまで。各自、家で乾かして完成してもらいました。

- ⑨あとは、キッチンペーパーで水分を吸い取り、ある程度乾いてきたら板からはがして、新聞紙などにはさみ、押し花を乾かすときと同じ要領で、乾かし、完成！

※万一、半乾きで放置してクシャクシャになっても、もう一度ぬらして広げれば大丈夫！

<紙の標本作り>

お子さんとの講座では、漉いた紙を乾かす間の時間を使って、紙の標本作りする。分科会でも、パピルス、ゾウの糞で作ってあるぞうさんペーパーなど、8種類を台紙に貼って、標本作りをした。台紙の枠⑨から⑫には、自分で作った紙を貼る。



<参加者からの声>

野菜ペーパーは、何と、おしゃれな食材として市販されているとのこと。知らなかった！ [VEGHEET 野菜のシート「ベジート」オンラインショップ \(shop-pro.jp\)](http://vegheet.com)

今回作ったものは、繊維ばかりなので、食材としてはおススメできません。お味噌汁の具ならいいのでは、との声もありましたが・・・

野菜を使った紙は、まだまだ試行錯誤して面白いものが作れそうです。トマトジュースをホットプレートで乾かして、透明な紙が作れるらしい、という情報もあり、試してみましたが、焦げてしまって失敗！ 成功したかたがいたら、是非、コツを教えてください！

<当日紹介した本>

『やさしいかみ』安田詩麻/指導、制作 河井邦彦/写真 フレーベル館 1998年
『紙の大研究④』一紙の実物図鑑— 岩崎書店編集部/編 岩崎書店 2004年

